６月定例記者会見　会見録

令和元年(2019 年) 6 月 5 日（水）11:00～11:30　庁議室

質疑応答

■「国土交通省　スマートシティモデル事業」の採択について

記者

今回の事業は、実証実験的な意味合いが大きいと思いますが、「いつまでにどのようなことを目指したいか」や、「将来的には、実装を目指していくのか」など今後のスケジュールについて伺います。

市長

もちろん実装を目指していくために実行します。詳細なスケジュールは、担当課から回答します。

科学技術振興課長

スケジュールについてお答えいたします。提案の内容を元に、まず、「スマートシティ実行計画」を作っていきます。その計画との整合を図りつつ、今年度は、バス乗降時の顔認証によるキャッシュレス決済、自動運転車いすを活用した歩行者信号情報発信システム、アラーム機能、ユーザーインターフェースの実証実験を目指します。

記者

この中で、今年度中に実施する実証実験はありますか。

科学技術振興課長

今申し上げたものが、2019 年度に着手を目指しているものです。

記者

今後は、「つくばスマートシティ協議会」を設立するということですが、いつ頃になる予定でしょうか。

科学技術振興課長

協議会につきましては、民間企業の鹿島建設株式会社他数社、筑波大学、茨城県、つくば市が概ね参画の内諾をしている状況です。スケジュールはまだ詳細を決定していませんが、早急に設立して、協議会の体制で実証実験に臨んでいきます。

■Tsukuba Global Night について

記者

昨年度からスタートアップの支援に本格的に力を入れ始め、さまざまなスタートアップが集うイベントが開催されているかと思います。この一年のスタートアップ支援の成果や今後の課題、取組についての総括を伺います。

市長

これまでは、「つくば市」という単語と「スタートアップ」という単語が紐付くことは無かったのではないかと思います。就任以降、スタートアップに関係するさまざまな取組等を行ってきました。昨年度スタートアップ推進室を作ったこともその一つですが、それ以上に地域に、スタートアップに対する機運が高まってきていると感じています。そして、このことが、「つくば市はスタートアップを本気で推進している」という空気を全国的に作っていくという点において、大きな成果があった一年だと思っています。

つくば市はスタートアップ都市推進協議会にも加盟をしたこともありますが、この一年のつくば市の取組は、特に都内のスタートアップ関係者たちから評価されており、地域内よりも地域外で評価を受けています。しかし、これらはまだ一つ目の段階であり、「今後、どのように成果を出し

ていくか」ということが問われています。そのために市では「スタートアップ戦略」を作りましたが、今年は秋にインキュベーション施設がオープンするなど、他にもさまざまな事業展開を考えていますので、今年度は、目に見える形でスタートアップのエコシステムを作る一年にしたいです。一方、「経営人材をどう確保していくか」、「投資をどうやって呼び込んでくるか」という課題も把握していますが、つくば市にある研究機関を中心としたさまざまなシーズ（新しく開発・提供する特別の技術や材料のこと）は、スタートアップを推進しようとしている全国の都市と比べても優位性があるので、市としてもディープテック（最先端の研究成果）をつくばの強みとして打ち出して、ディープテック分野において、世界を牽引するスタートアップ企業をつくばから生み出していきたい、その土台を作る一年にしたいです。

■つくばスマートシティについて

記者

バス乗降時の顔認証によるキャッシュレス決済の実装は、つくバスを活用して実施するのでしょうか。それとも関東鉄道などの協力を得て実施するのでしょうか。

市長

関東鉄道などの協力を得て実施することを前提としています。

記者

今年度からさまざまな取組をされると思いますが、特に市役所周辺の道路は非常に整備されている一方で、つくば駅周辺の歩道はガタガタになっています。さらに、筑波地区や茎崎地区の道路や歩道は貧弱だと思います。そのようなことから、この事業はつくば市全体を使って実施していくのでしょうか。それとも研究学園などの一定エリアを活用して実施するのでしょうか。

市長

目標は市全体を使って実施したいのですが、スタートから市全体というのは物理的にも難しいた

め、今回は一定のエリアを活用しています。ただご指摘の点は非常に重要で、車いすなどを利用する高齢者の方が多い地区で使ってこそ成果が出ると思っています。これを実現するために、今回の実証実験で、さまざまなデータを収集し、課題を把握した上で、市全体での実装につなげていきたいと思います。

■「秀峰筑波かるた」について

記者

かるた制作委員会は、秀峰筑波義務教育学校が、昨年（平成 30 年）に開校したのと同時に設立されたのでしょうか。

制作委員会

はい。

記者

約 3,000 人が協力したとのことですが、具体的にはどのような協力をしたのですか。

制作委員会

まず 5 年生が、つくばスタイル科の授業で「読み札」を考え、美術部員が「絵札」を描きました。実行委員会が「解説」を考えて、地域の方に「監修」をお願いしました。そして、先生がその構成を行いましたので、合計すると約 3,000 人が関わってくれたことになります。

記者

「地域等でかるた大会を年 8 回開催」とありますが、直近の予定や決まっているものはありますか。

制作委員会

今後の予定は決まっていないですが、既に 8 回やりました。また、かるたは手軽であるため、市長と市長応接室でかるたをやったこともありました。三世代で使えて、コタツの上でできて、都合が悪ければ終わりにできるという点もかるたの良いところだと思います。まだ企画はしていないのですが、秋には地域の方を招き、学校でかるた大会をやりたいです。

市長

私も 15 分くらい本気でやりました。

記者

先ほど市長が「私も知らない情報があった」と言っていましたが、例えばどのようなことを始めて知ったのでしょうか。

市長

このかるたは、筑波地区の詳細な解説が入っています。例えば「普門寺」の解説で、「中世以来、小田家の祈願寺として」ということは当然知っていましたが、「神郡小学校は普門寺を仮校舎として開校していた」ということなどは初めて知りました。このように、このかるたにはちょっとした地域の歴史にまつわるトリビアが解説に書いてあります。

記者

かるたの読み札についても、アイデアを児童・生徒から募集して、実際のフレーズを 5 年生が完成させたということでよろしいのでしょうか。

制作委員会

はい、そうです。学校全体で題材を募集した後、それを 5 年生が国語の授業として自分たちで調べ、5 ～ 6 時間かけて作りました。「あいうえお」に当てはめていく点が、かるたの一番難しいところですので、どうしても足りない部分は実行委員で編集しました。

記者

「ん」は別にして、50 音全部ありますか。

制作委員会

はい、46 枚あります。

市長

「ん」もあります。「んだっぺよ　秀峰筑波　いがっぺよ」

■つくばスマートシティについて

記者

協議会には、民間企業、大学、自治体が入っていますが、つくば市の役割と、今年度挙げられている 2 つの取組について伺います。「バス乗降時の顔認証」はイメージできますが、「歩行者信号情報システムを活用した搭乗者向けアラーム機能」や、「ユーザーインターフェースの実現」はどのような取組でしょうか。また、今年度のいつ頃スタートするのでしょうか。

科学技術振興課長

つくば市の役割ですが、茨城県や筑波大学とともに事業全体の企画、関係者の調整、協議会の運営等に主に関わるという役割を担っていきます。信号情報システムにつきましては、昨年、記者の皆さんにもご覧いただき、イーアスの前で信号の情報を読み取ってセグウェイでの横断を行いました。今度はそれを車いすに替え、横断歩道を渡ろうとする時間と渡りきる時間の関係から、危険と予測される時間帯で警報をならし、それがユーザーとして使いやすいかどうかを検証することを想定しています。また時期ですが、具体的なところはまだ決まっていませんが、この時点の採択ですので、年度の後半になるかと思います。

記者

実証実験ですが、前回イーアスでやった時のように、日程を決めて 1 日だけで参加者を確定させて実施するのか、または、多くの方に参加してもらい、ある程度の期間を使って実施するのでしょうか。

科学技術振興課長

研究所との調整等も必要ですので、具体的なところは今後お知らせしたいと思います。

記者

実証実験というと、一般の人も参加している中でオープンに実施しないと実験にならない気がするのですが、どうでしょうか。

科学技術振興課長

産総研の協力等もいただきながらやることになりますので、その検証の仕方は専門家との相談を踏まえて検討したいと思います。今の段階ではそこまで詳細を決定していませんので、今後お知らせしたいと思います。

■「総務省　革新的ビックデータ処理技術導入推進事業」の採択について

記者

クラウド AI についてお伺いします。事業概要として、つくば市が特定健診受診率が低いため、「レコメンドを AI が判断する」ということですが、検索すると、「つくば市特定健康診断診査等実施計画」というのがあって、平成 28 年度だと、受診率が 34.5%、目標値が平成 35 年で 60%とあります。AI を導入すると、どれくらいになるのかという見立てでこの事業をされているのでしょうか。

保健福祉部長

導入してどこまで実際上げられるかという数値があるわけではないのですが、目標としては 40%というのを目指しております。

記者

今私が言った数字で良いのでしょうか。

保健福祉部長

平成 29 年度が 35.2%で県内 35 位という状況です。平成 30 年度は速報でもう少し上がってはおりますが、まだ確定ではないのでお伝えできません。

記者

実施方法は、8 月にシステムを作って、実際に発送開始はいつを目指しているのですか。

保健福祉部長

スケジュールは、秋頃としか現時点では申し上げられません。

■G20 茨城つくば貿易・デジタル経済大臣会合ついて

記者

６月 7 日に地元の歓迎レセプション、8・9 日が会議ということで、G20 がいよいよ今週末に迫ってきました。市民・主賓の役割、会議そのものに対して等、市長としてこの会議に期待をすることがあれば教えてください。

市長

つくば市としてすべきことは、「この大臣会合を安全に終える。無事に会議を滞りなく成功させること」だと思っています。現在は、国、県、警察等々、さまざまな協議をしながら万全の準備を進めているところです。

一方、市民にとって G20 がどういう位置づけになるのかを考え、未来につないでいくため、多くの事業を行っています。先日は、中学校で世界の経済について知ろうという授業を実施しました。この取組は、今年度、全中学校で実施します。その他にも、この G20 をきっかけに、つくば市のテクノロジーやスタートアップ、アートについて、市民や子どもたちの教育に繋げていくことに取り組んできましたが、この活動に終わりはありませんので、これからも続けていきたいです。大臣会合自体に対して私がコメントする立場にはありませんが、大臣会合の中でも最も注目される会合の一つだと思います。米中、米ロあるいはブレグジットといったさまざまな課題がある中で、「今後の世界経済がどういう方向に進んでいくのか」や、「データの流通ルール」についても関係各国で協議していると思います。日本が先導的に進めている「Data Free Flow with Trust（信頼性のある自由なデータ流通）」は、どこまで各国に理解され共有されるか期待していますし、より自由で開かれた世界になるきっかけの会合になればと思います。

終了